

1 学力統一試験の成績評価について

令和3年度5年次「学力統一試験」の成績は、「前期学力統一試験」（令和3年7月実施）と「後期学力統一試験」（令和3年11月実施）の結果によって総合評価する。

両試験の配分比率は、「前期学力統一試験」20%、「後期学力統一試験」80%とする。

① 目的

- (1) 国家試験レベルの試験問題を解き、自己の知識量や学力到達度を把握することによって、6年次の学修を効果的なものとする。
- (2) 成績上位者に対する「6年次における学修上の配慮」（平成28年度から実施）の対象者を選抜する際の判断基準とする。

② 成績の取り扱い

5年次生の総合得点率の平均値を m_5 、6年次生の総合得点率の平均値を m_6 としたとき、5年次の各学生の修正した総合得点率を次で定める：

（5年次の各学生の修正した総合得点率）

$$= (5年次の各学生の修正前の総合得点率) \times m_6 \div m_5$$

の小数第2位を四捨五入した値

なお、修正した総合得点率が100%を超えた場合は100%とする。

2 6年次における学修上の配慮について

- ① 対象者 前期・後期学力統一試験における総合成績上位者20名
- ② 内 容 6年次前期に行われる「自由選択学習（5週）」と「選択臨床実習（8週）」の期間を合わせた合計13週（約3か月）を用いて、学生の希望に合わせた自由度の高い学修機会を提供する。その目的、趣旨は自由選択学習に準じることとし、特定診療科での臨床実習のみならず、基礎医学分野・社会医学分野での研究従事や学外（海外含む）での病院実習などの機会として活用されることを期待している。
- ③ 評 価 自由選択学習の評価方法に準じます。（担当教員による評価50%、履修報告書の内容50%）評価結果に基づき、自由選択学習と選択臨床実習のユニットを付与する。

成績上位者に対するこのような特別の配慮を行うことは、トップランナー育成の姿勢を具現化したものであり、本学部の将来を担う「次世代の育成」に積極的に取り組んでいこうとする姿勢を表すものである。6年次生にも匹敵、あるいはそれを上回るような学力を備えた者に、自ら学び、知的探究心を満たす機会を与えることによって、知識面のみならず人格形成上においてもより高い効果が得られることを期待して実施するものである。

3 6年次自由選択学習(特別コース)における対象者の選出について

- ① 目 的 国家試験に合格出来るだけの基礎学力を養成し，単なる試験のための知識でなく，臨床医に必要な知識と問題対処能力を養成する。
- ② 対象者 5年次「学力統一試験」成績において，6年次科目再履修者（原級留置者等）及び前期・後期合計有効得点数（％点）が60点未満の者を対象とする。

以 上